

かずさの博物誌

オオミズナギドリ

～大洋の海鳥～

文・写真／成田篤彦

2016.2.20

秋晴れの富津岬。遠くにレインボウブリッジが見える。

沖に海鳥が浮いていた。

「ウミネコの群れ？」と双眼鏡でのぞいても種名はわからない。

「あ！飛んだ」

ウミネコより大きい。つばさがグライダーに似ていた。

「オオミズナギドリ」だ。

彼らは舞い上がっては旋回し、海へ飛び込む。海面で羽ばたきをしているのもある。一つの群れが約二百羽、沖合に三群いた。

「何をしているのか？」と不思議に思った。

澄んだ海水が足元まで満ちてきた。すると、オオミズナギドリの群れが近づいてきた。

彼らが群れている海面に真っ黒なかたまりが見えた。

「イワシの群れ」だ。

それが、海岸にやってきた。

するとオオミズナギドリの群れも



▲富津岬から見た風景 2013年9月19日 富津岬



▲イワシの群れを捕食するオオミズナギドリ
二〇一三年九月十九日 富津岬

目の前にやってきた。

頭を首まで海水中に突っ込み、我先にイワシをついばんでいる。

まるでイモ洗い状態だ。

「食事のマナーが悪いな」とあきれってしまった。

オオミズナギドリの背は茶色、腹側は雪のような白。つばさは幅広くて長く、先がとがっている。頭は青みがある。

くちばしの先が鉤のように曲がっている。その上に管状の鼻孔があった。

これが、ミズナギドリの仲間の特徴だ。昔見た、はく製のアホドリとよく似ていた。

大洋で生活する海鳥のがっちりとしたつばさ、管状の鼻孔など初めて



▲オオミズナギドリの群れ 2013年9月19日 富津岬

▲海洋を飛ぶオオミズナギドリ
二〇一三年九月十九日 富津岬



見た。やはり海で実物を見ると迫力がある。

ちなみに、彼らは眼の上に塩腺があり、飲んだ海水から塩分をこしとり、それを管状の鼻孔から射出する。これがあるので、ミズナギドリなどの海鳥は淡水がなくても生活できる。

イワシの群れが沖に戻っていくと彼らも沖に去っていった。

しばらくして、一〜二羽で、次々と海面すれすれに南に向かって、猛スピードで飛行していった。つばさの先で海面を切ったような跡が見えた。羽ばたくことはほとんどない。

見事な飛行であった。

彼らは、風を利用し、海面から高さ約二十メートルの範囲内を飛ぶ。また、海面や浅い海中の小魚などを捕る。

オオミズナギドリは魚群に集まるので、漁師の方は彼らの飛ぶ群れを目印にして、漁を行っていたそう。

いづれにせよ、上総の海で大洋上に生活する海鳥を岸辺から間近に見られるのは素晴らしい。

memo

オオミズナギドリ

ミズナギドリ目

ミズナギドリ科

全長四十八センチメートル、海洋の表層で魚、イカなどを捕食し、伊豆七島、御蔵島などの離島で集団繁殖する。